

(仮称) 厚田小中学校設立準備委員会 第1回会議【質疑要旨】

- ・日時 平成28年8月26日(金) 18:40~20:33
- ・会場 厚田保健センター 1階多目的ホール
- ・出席者 委員14名
 - ・保護者: 小笠原英史(厚田小PTA会長)、富樫大幸(望来小PTA会長)、早坂伊佐雄(厚田中PTA副会長)、阿部 保(聚富小中PTA会長)、本郷亜希子(厚田保育園父母の会会長)
 - ・学校関係者: 昇 洋一(厚田小教頭)、田中 亮(望来小教頭)、三浦崇史(厚田名教頭)、風間敏明(聚富小中校長)
 - ・学校支援推進員: 渡邊教円(厚田小)、渡部賢二(望来小)、小林晴美(厚田中)
 - ・厚田区地域協議会: 佐藤勝彦(同会長)
 - ・学識経験者: 前田賢次(北海道教育大学札幌校准教授・教育方法学)

事務局〔市教委〕

佐々木生涯学習部長、安崎総務企画課長、田村厚田生涯学習課長、松永総務企画課主幹、西山厚田生涯学習課主査、石黒学校教育主事

※傍聴者 1名

【開会あいさつ(佐々木生涯学習部長)】

- ・本年6月の教育委員会会議で決定した「厚田区の学校整備の具体策」を受け、厚田区の新設校の主な枠組みとして、「小中一貫校」と「コミュニティ・スクール」としたところである。今後、地域が学校運営に関わって、地域ぐるみでこれからの厚田の教育をどのように充実させていくかについて、この設立準備委員会の場で一緒に協議させていただきたい。そこには、夢を語るだけではなく、現実を見据えながらどのように折り合いをつけていくかというような議論も出てくるのではないかと考えているので、これから委員の皆さんのお力、ご意見をいただきながら、開校に向けて取り組んでいきたい。

【自己紹介】

- ・事務局職員より
- ・各委員より

【委員長及び副委員長の選出】

- ・事務局案を提示することについて了承を得た後、委員長に佐藤勝彦氏、副委員長に前田賢次氏を選出することを提案し、全会一致で承認された。

【佐藤委員長挨拶】

- ・新しい学校づくりに関わるということは、誰もが経験できない、人生に一度あるかないかのこと。43年間教育畑で培った経験を、微力ではあるが地域のためにお役に立つことができるよう、力を尽くしたいと考えている。
- ・教育を語ることは誰でもできるが、語るだけでは本当の教育はできないと思っている。一つだけ申し上げたいのは、是非委員の皆さんと会話(コミュニケーションだけ)ではなく、対話を重ねていきたい。ある委員が意見を述べたら、その意見にはどんな背景があるのかなど、相手の立場

を考えながら、それに対して更に自分の意見を述べるといった、すなわち考え続ける会議にしていきたい。

- ・夢を語るだけでは、かたちになっていかないので、決定しなければならない場面では、落としどころを考えながら、対話を続けることによってその決断をしていかなければならず、その積み重ねの作業になっていくと思われる。
- ・教育とは、次の世代を育てていくことなので、是非、日頃から抱かれている地域への想いをぶつけて、そのための入れ物（学校）をこれから作っていく、これから委員の皆さんと一緒に私達の手で厚田の教育を作っていく、今日はその第一歩であると思っている。

【 これまでの経過、趣旨等の説明 】

【 今年度の設立準備委員会の取り組みについて 】

- ・配布資料に基づき説明（松永主幹）
- ・今後、各会議の内容について、厚田区内へ広く周知するため、「委員会便り」を作成し、保護者への配布や町内会回覧、市のホームページに登載する。
 - ・会議は広く公開（傍聴可）とする。
 - ・委員について、PTA等の役員改選や校長・教頭先生の人事異動があった場合は、後任者へ引き継ぐこととする。
- 以上について、了承された。

(A委員)

- ・小中一貫校とコミュニティ・スクールを導入することは、決定事項ということで確認してよろしいか。

→ はい。(事務局より了解する。)

(B委員)

- ・聚富小中は、今回の統廃合によって平成31年度限りで閉校となるが、同校の教育活動は大変素晴らしい取組をされているので、新設校でもたくさん引き継いだ方がいいと考えている。

(副委員長)

- ・次回の会議の中で、聚富小中や他の学校でこれまで行ってきた取組の良いところを、青色の付箋紙にたくさん書いてほしいと思います。

→ B委員 了解

(C委員)

- ・今後、会議に参加できない場合は、代理を出席させることでよろしいか。欠席ではなく、代理を立てることで出席させていただきたい。

→ わかりました。(事務局より了解する。)

(委員長)

- ・議事録は作成するか？

→ 事務局で要約筆記の形で作成するほか、「委員会便り」を通じて広く周知する。

(D委員)

- ・次回の会議（ワークショップ）に向けて、学校に持ち帰って教職員からの意見も反映させるかたちで、付箋紙に書いてくることとしてよろしいでしょうか。

→ そのようにお願いします。（事務局より了解する。）

【 意見交流 】

(B委員)

- ・望来小PTAの代表として、「スクールバス」について、次の点を早急に改善するよう要望する。
 - ① 中学生の部活動について、現在は土・日・祝日のスクールバスは運行していないが、新設校開校の際には措置対応してほしい。現状では、親が望来から厚田中まで送迎しているが、親が対応できない場合は子どもが部活動に参加できず、結果として技術的な差が出てくることになってしまう。大人の都合で子どもに差ができるのはおかしい。
 - ② 統合した段階で、現在、厚田小で活動している少年団（野球、バレーボール）について、望来の子も達も参加できるよう、スクールバスを運行してほしい。
 - ③ 保育園児の送迎について、新設校に保育園機能ができる場合、その送迎拡大をお願いしたい。私の娘は、今、聚富保育園に通っているが、もう少しで廃園になると聞いている。厚田の新設校に保育園ができた際にスクールバスでの保育園児の送迎も併せてできるようになれば、望来から厚田に行くことができ、保育園から小・中学校までの間、同じ友達関係で過ごすことができる。もしできなければ、八幡のくるみ保育園に通う子どもも出てきて、どちらの小学校（厚田新設校か八幡小か）に行くかということになってくるので、お願いしたい。
 - ④ 学校行事（参観日やPTA活動なども含めて）の際の保護者の送迎（交通手段）について、これは我儘かもしれないが、実状として家庭に一台しか自家用車がないとか、運転免許を持っていない保護者もいる中で、学校行事に参加できないとなると、統合の意味が無いのではないか。
 - ⑤ 子どもが急病になったときの対処も検討してほしい。結局は、親の不安を取り除かなければ新しい学校づくりについての話ができるかということになる。

- ・以上、これらの要望については、地域説明会の時に保護者から要望していると聞いているので、当然、市としても協議していると考えている。学校をつくる、つくらないの話の前に、この件について早急に解消することの確認をしたいというのがPTAの意見なので、次回の会議までに結論を出していただきたい。

→ （事務局）

次回までにこれら全てについての答えを出すことは遠慮させていただきたい。できないというのは簡単ですが、市教委としても何らかの打開策を見出したいと思っている。期限を設けて回答する必要性はわかるので、今年中に答えを出すということではいかがでしょうか。

- (B委員)
今年中で方向性が決まりますか。決まらなければ、学校の特色づくりという話にはならないと思う。私は、保護者や子ども達の不安を解消することから話を始めたいと思っている。
- (事務局)
この話が決まらなければ、この先に進めないというのは勘弁していただきたい。
- (副委員長)
市教委としても当然考えられていると思う。提案ですが、この件については今後丁寧に、市教委と保護者、地域と別途協議していくこととしてはどうでしょうか。
- (B委員)
保育園児の送迎については、旧厚田村のときに望来保育園が閉園になって、その時に送迎バスを運行するという約束をしたにも関わらず現在に至っている。不安を解消するところから新しい学校づくりの協議になると思う。
- (事務局)
例えば、保育園児を送迎とした場合、保育園が何歳から預かるかということを考えなければならぬ。例えば、幼稚園児の年齢であればバス送迎ができるかもしれないが、0歳児からの対応となると、それは難しいということになってくるのではないかと。この話だけを切り離して、次回の会議までの1ヶ月で結論を出すというのは難しいということをご理解願いたい。今年中に整理できる問題と、もう少し時間がかかるという答えは出せると思います。今年中に方向性を出せるものは出すということです。
- (委員長)
スクールバスの問題は、制度的にも難しく、児童生徒の通学のためのバスというのが大前提であるが、なんとかこの地域で工夫しながら解決に向けて取り組んでいく方向で進めていきたいと考えている。
- (A委員)
道の駅ができることで、例えばデマンドバスの検討というような、スクールバスだけではない考え方や手法についても検討すべきではないか。それは、担当が市教委ではなく市長部局となり、厚田のこれからのまちづくりに関わってくることだと思う。
- (事務局)
例えば、望来から厚田までデマンドバスを運行することになると、中央バスが無くなることになり、そのあたりを地域としてどう考えるかということになってくる。花川地区でも同様のことが言えて、デマンドバスを運行することと、中央バスが無くなることの両方を考えなければならず、それは公共交通やまちづくりに及ぶ話になってくる。
- (E委員)
聚富小中のPTAでは、もし厚田の新設校ができた際に、子どもが急病のときに迎えにいけるかどうかという話はあったが、B委員からのような保育園の送迎に関する意見は無かった。

→ (F委員)

望来や発足地区からのスクールバスの状況と、聚富地区の状況とは違うと思う。また、部活動だけではなく、学力向上の取組で放課後学習のことなどもある。また、現在活動している部活動が、そのまま存続しているかどうかに関わってくると思う。

→ (委員長)

11月に予定している第3回会議で、各委員からの新しい学校づくりに向けた提案の一つ一つについて、着手容易性と効果を全体交流することになっており、このスクールバスの課題は出てくると思っていて、A委員からあったデマンド交通のことが挙げられ、中央バスやNPO法人あつたライフサポートの会の活動との関連について挙げられると予想している。B委員におかれては、そのようにご理解をいただきたい。

→ (B委員) 了解しました。この件については、望来地区の皆さんが注目しているので、一つでも多く解決できるようお願いしたい。

【その他】

- ・事務局より、「先進地視察」として中標津町立計根別学園（小中一貫の義務教育学校、平成27年度に町内8小中学校を統合）の視察を9月下旬から10月上旬に予定しており、事務局職員以外に当委員からの参加を要請した。参加者の選考について、佐藤委員長と前田副委員長と協議の上、一任いただくことについて了承を得た。
- ・次回の会議日程を決めるにあたり、今後の会場について「厚田保健センター（G委員から提案）」か「望来コミセン・みなくる（B委員から提案）」のどちらにするか協議した。
 - 多数決により、厚田保健センターを会場とし、今回は10月7日（金）18時30分より開催することとした。

会議録署名

上記会議の経過を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成28年10月 7日

(仮称) 厚田小中学校設立準備委員会

委員長 佐藤勝彦